

財団法人 日本バレーボール協会

平成 22 年度事業計画書

(平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日)

1. 事業方針

本会は、わが国におけるバレーボール界を統轄し代表する団体として、バレーボール競技の普及及び振興を図り、もって児童・青少年の健全な育成及び国民の心身の健全な発達に寄与し、または豊かな人間性を涵養する目的を達成するため、本年度は以下の基本方針に基づき事業を推進する。

近年のわが国におけるバレーボール界は、国際化、情報化、少子高齢化の進展などにより、急激な変革が生じている。また、世界に目を向けるとグローバル化、ボードレス化が顕著であり、これまで以上にバレーボール先進国に対する世界的な期待が高まっている。

こうした中で、スポーツ振興・バレーボール振興の意義と国内・外における本会への期待を踏まえ、わが国のバレーボール界統轄組織として全国的な視野で競技の普及・振興事業を行うとともに、国際バレーボール連盟との連携を図り、世界のバレーボール先進国として各種事業を効果的に推進する。

2. 事業内容

(1) 競技力向上事業及び競技力向上に係る日本代表選手団国際大会派遣事業

① 日本代表チーム及び選手の育成・強化事業

全国の社会人、大学生、高校生の中から選抜された有力選手による日本代表チームを編成し、国際競技力向上を図るため以下の諸事業を行う。

1) シニア男子・女子日本代表チーム強化合宿

本年度の最大目標である世界選手権大会、アジア競技大会（ともに4年に1回開催）でのメダル獲得を目標として選手強化合宿を行う。

*男子 国内合宿・ナショナルトレーニングセンター（以下「NTC」という。）を主会場として 90～100 日間実施。

海外合宿・世界選手権直前調整合宿としてイタリアで 9 日間実施。

*女子 国内合宿・NTC を中心に 90～100 日間実施。

海外合宿・イギリス、スイス、ブラジルで 30 日間実施。

(注 1・シニアチームとはトップレベル選手から構成された日本代表チームである。)

2) ユニバーシアード男子・女子日本代表チーム強化合宿

23 年度に開催されるユニバーシアード大会でのメダル獲得を目標として選

手強化合宿を行う。

*男子 国内合宿・NTC を中心に 40 日間実施。

*女子 国内合宿・NTC ほかに 21 日間程度実施。

(注2・ユニバーシアードチームとは主に大学生を中心に構成された日本代表チームである。)

3) ジュニア男子・女子日本代表チーム強化合宿

本年度の最大目標であるアジア選手権で優勝し世界選手権出場権を獲得することを目標に強化合宿を行う。

*男子 NTC を中心に 45 日間実施。

*女子 NTC を中心に 17 日間実施。

(注3・ジュニアチームとは主に 20 歳以下の選手を中心に構成された日本代表チームである。)

4) ユース男子・女子日本代表チーム強化合宿

*男子 20 日間実施 *女子 11 日間実施

(注4・ユースチームとは主に高校生を中心に構成された日本代表チームである。)

5) ビーチバレー日本代表選手強化合宿

国際バレーボール連盟ワールドツアー出場と各種国際大会の日程調整を行い、効率的な強化合宿を実施する。

②将来性を有する選手の発掘及び育成強化学業

1) バレーボールアカデミー事業

全国からオーディション等で選抜された中学生をトレーニングセンターに集め、アカデミープログラムに基づき、トップレベルの指導体制による強化合宿を、年間を通して実施する。

2) 全国選抜中学生強化合宿、全国9ブロック選抜高校生強化合宿事業

長身選手の発掘、育成、強化を目的に、コーチ派遣を行い、巡回指導を実施する。

③競技力向上にかかるバレーボール技術の調査研究及びスポーツ医・科学の調査研究事業

1) 日本代表選手の体力測定評価、測定結果に基づくトレーニング処方立案と提言を行う。

2) 日本チームとの対戦が想定される外国チームの戦力掌握を行う。

3) トレーナーの育成、教育を行い、日本代表チームに派遣する。

4) 日本代表チームにドクターを派遣するとともに薬剤の手配を行う。

5) アンチ・ドーピングの啓発と普及及び研修を行う。

④日本代表選手団の国際大会派遣事業

選手強化合宿の効果を検証するとともに、実戦（試合）を経て得られる技術、戦術ほか総合的な競技力向上を目的として以下の各大会に日本代表選手団を派遣する。

1) シニア日本代表チーム

*男子 ワールドリーグ 2011 予選（開催国・日本、8/17～8/25 以下同様に表記）

第2回 AVC カップ（イラン、8/1～8/7）

2010 世界選手権大会（イタリア、9/25～10/10）

第16回アジア競技大会（中国、11/12～11/27）

*女子 ワールドグランプリ（ブラジル、日本、中国、8/6～8/29）

第2回 AVC カップ（中国、9/19～9/25）

2010 世界選手権大会（日本、10/29～11/14）

第16回アジア競技大会（中国、11/12～11/27）

2) ジュニア日本代表チーム

*男子 ジュニアアジア選手権大会（タイ、10/1～10/9）

*女子 ジュニアアジア選手権大会（ベトナム、9/12～9/20）

3) ユース日本代表チーム

*男子 ユースアジア選手権大会（イラン、5/13～5/21）

*女子 ユースアジア選手権大会（マレーシア、5/20～5/28）

上記以外に、第1回ユースオリンピック（シンガポール、8/14～8/26）

4) ビーチバレー男女日本代表チーム

・ワールドツアー（世界各地で4月～10月まで開催、7、8月はほぼ毎週末開催）14～18大会に派遣

・アジア選手権大会（中国、10/18～10/24）

・第16回アジア競技大会（中国、11/12～11/27）

（2）国際大会開催事業及び国際貢献・交流事業

①国際大会開催事業

1) 世界選手権大会

国際バレーボール連盟（以下「FIVB」という。）が4年に1回開催する世界選手権女子大会を FIVB と協力して日本で開催する。

世界選手権大会は、世界バレーボール界最大の大会である。

開催期間：10月29日～11月14日の17日間

試合数：延べ104試合

参加国：各大陸予選（98カ国参加）を勝ち抜いた強豪24カ国

(選手団 460 人、競技役員 60 人、計 540 人が来日予定)

開催都市：東京、浜松、松本、大阪、名古屋の 5 都市。

2) FIVB ワールドグランプリ 2010

FIVB はアジアでの女子バレーボールの発展を目的としてアジア地区で本大会を毎年、開催しているが、本年は予選ラウンドを FIVB と協力して開催する。決勝ラウンドは中国で開催。

開催期間：8 月 13 日～15 日、8 月 20 日～22 日、計 6 日間

試合数：延べ 12 試合

参加国：アジア、ヨーロッパ、北中米、南米の代表 12 チーム

(選手団 120 人、競技役員 12 人、計 132 人が来日予定)

開催都市：東京、岡山の 2 都市。

3) FIVB ワールドリーグ 2011 予選大会

FIVB は毎年夏、その年の男子バレーボールの世界一を決める本大会を開催しているが、本年は 2011 年大会の出場国を決める予選大会を FIVB と協力して開催する。

開催期間：8 月 17 日～18 日、8 月 24 日～25 日、計 4 日間

試合数：延べ 4 試合

参加国：日本、チュニジア、韓国

開催都市：長野市

②国際貢献・交流事業

1) 国際バレーボール連盟(FIVB)及びアジアバレーボール連盟(AVC)役員派遣事業

世界のバレーボール界の統轄組織である FIVB 及びアジアの統轄組織である AVC の理事職及び競技運営、審判規則、指導普及、医事ほか各種委員会の委員に関して、本会の代表を派遣、世界のバレーボール界の発展に尽力し国際的な貢献を行う。

本年は、FIVB 及び AVC 理事会ほか各種会議に当該メンバーを派遣するとともに、国際レベルの指導者講習会への講師派遣、各国で開催される世界大会、アジア大会ほかに競技運営委員、審判員ほかを派遣する。

2) バレーボールバンク事業

発展途上国へボールほかバレーボール用器具を寄贈して競技の普及を図り、同時に様々なバレーボール情報を提供し、発展途上国のスポーツ振興に寄与する。

(3) 講習会開催事業、指導者、審判員等養成及び資格認定・登録事業

①講習会 (バレーボール教室) 開催事業 (参加者見込数・2,200 名)

1) バレーボールをやってみよう～Vリーグ選手と一緒にバレーボール教室

本会では、小学生のバレーボール未経験者及び初心者を対象に、Vリーグ選手が参加してバレーボール教室を毎年各地で開催しているが、本年度は以下の8府県で実施する。

青森県、群馬県、富山県、愛知県、京都府、島根県、徳島県、鹿児島県

2) バレーボールを上手になろう～全国小学生バレーボール教室・指導者研修会（参加者見込数・選手3,200名、指導者700名）

本会では、小学生のバレーボール経験者を対象としてバレーボール教室を開催、併せて小学生指導者を対象に指導実技研修会を毎年各地で開催しているが、本年度は以下の8県で実施する。

北海道、神奈川県、静岡県、滋賀県、兵庫県、山口県、香川県、長崎県

②指導者養成事業

小学生指導者ほか各種別の指導者を対象に以下の養成講習会等を開催する。

1) 全国小学生バレーボール指導者講習会（参加者見込数・2,800名）

本会では、小学生の指導者を対象として第一次及び第二次講習会を毎年各地で開催しているが、本年度は以下の10都県で実施する。

和歌山県、東京都、新潟県、愛媛県、神奈川県、広島県、長野県、岩手県、茨城県、熊本県

2) 全国中学生バレーボール指導者講習会（参加者見込数・60名）

本会では、中学生の指導者を対象として全国中学生指導者講習会を毎年各地で開催しているが、本年度は以下の3都県で実施する。

熊本県、東京都、富山県

3) 都道府県別バレーボール指導者研修会（参加者見込数・430名）

各都道府県の指導者の資質向上を目的に、全国38都道府県で開催する。

4) ソフトバレーボールリーダー・マスターリーダー養成講習会（参加者見込数・1,130名）

ソフトバレーボールの指導、審判、競技運営ができる指導者の養成を目的に東京都ほかで開催する。

5) ビーチバレー指導者講習会（参加者見込数・35名）

ビーチバレー指導者を対象に、神奈川県で開催する。

6) 日本体育協会公認上級コーチ、コーチ、指導員・バレーボール専門教科認定講習会（参加者見込数・330名）

日本体育協会からの受託事業として、上級コーチ、コーチ、指導員の資格取得に向けたバレーボール専門科目の講習会を東京と大阪で開催する。

7) 本会公認講師認定講習会・公認講師研修会（参加者見込数・50名）

本会が開催する講習会の講師を務める指導者を対象として、認定講習会及び

スキル向上のための研修会を東京都で開催する。

③審判員等養成事業

競技会（試合）における適正な判断と円滑な試合運営を行う審判員及び技術統計判定員を養成するため、以下の講習会等を開催する。

講習会名等	実施期間	会場	参加者数
A級候補審判員講習会	22.08.10～13	東大阪市・近畿大学	80名
B級審判員講習会	22.08.13～15	東大阪市・近畿大学	80名
全国ビーチバレー審判講習会	22.06.05～06	川崎市・マリエンビーチコート	30名
全国ラインジャッジ・クリニック	22.04.29～05.01	大阪市・大阪府立体育館	60名
全国9人制審判講習会	22.04.02～03	大阪市・大阪中央体育館	250名
ブロックA級審判員講習会	22.04.01～06.30	全国各地	950名
技術統計上級判定員認定講習会	22.04.29	東京都・東京体育館	30名
競技会事前講習会	22.07～23.01	全国各地	340名

*参加者は見込数

④指導者等資格認定事業

1) 指導者資格認定事業

本会では、バレーボールを正しく、安全に、楽しく指導することで、バレーボールの本質的な素晴らしさを伝えることができる指導者資格として以下の資格の認定登録を行う。

小学生バレーボール指導者資格 ソフトバレーボールリーダー ソフトバレーボール・マスターリーダー 公認講師

2) 審判員資格認定事業

本会では、競技会（試合）における適正な判断と円滑な試合運営を行う審判員資格として以下の資格の認定登録を行う。

A級審判員 A級候補審判員 B級審判員 C級審判員 レフェリーインストラクター

3) 技術統計判定員資格認定

本会では、競技における技術統計記録法の適正な運用と、各種プレーの評価と判定の統一を行う技術統計判定員資格として以下の資格の認定登録を行う。

技術統計判定指導員 技術統計上級判定員 技術統計判定員

(4) 全国大会等国内競技会開催事業

①天皇杯皇后杯全日本選手権大会開催事業（男女大会）

天皇杯・皇后杯は昭和25年(1950年)に全日本9人制選手権大会に下賜されて以来、平成22年までの61年間、日本国内最高のチームに授与され、また平成19年度からは中学生以上のチームならどのチームでも参加できる壮大な大会に生まれ変わったが、本年はその4回目として以下の日程で実施する。

- 都道府県ラウンド：平成 22 年 4 月～9 月 各都道府県内体育館
(850 チーム・15,300 名参加見込)
- ブロックラウンド：平成 22 年 9 月～10 月 各地域ブロック内体育館
(202 チーム・3,636 名参加見込)
- ファイナルラウンド：平成 22 年 12 月 16 日～19 日 国立代々木競技場体育館
(48 チーム・864 名参加見込)

②全日本小学生大会（男女大会）

教育的配慮のもとにバレーボールを通じて全国児童の親睦と交流を図ること、バレーボールによる小学生の体力向上とたくましい意欲の養成に努めること、低学年層から正しいバレーボールの基本技術とチームプレーを体得し、楽しいゲームが出来るように指導することを目的に、本年は 30 周年記念大会として以下の日程で実施する。

- 都道府県大会 : 平成 22 年 4 月～9 月 各都道府県内体育館
(2,200 チーム・26,400 名参加見込)
(参考・都道府県内予選を含めると参加は約 6,500 チーム)
- 全国大会 : 平成 22 年 8 月 11 日～14 日 東京体育館ほか 4 会場
(都道府県代表 110 チーム・1,320 名参加見込)
- なお、例年同様、大会と並行して各選手村（宿泊施設）
で教育活動を行う。

③全国都道府県対抗中学大会（男女大会）

将来のオリンピック選手発掘と中学生バレーボールのレベルアップを図り、各チームとの交流を通して友情を深めスポーツマンシップの高揚に努めると共に、中学生指導者の研修の場とすることを目的に、本年は以下の日程で実施する。

- 開催期間：平成 22 年 12 月 25 日～28 日
会 場：大阪府中央体育館ほか 3 会場 (97 チーム・1,455 名参加見込)

④全日本高等学校選手権大会（男女大会）

都道府県予選を勝ち抜いた高校日本一を決める大会として本年から装いも新たに以下の日程で実施する。

- 開催期間：平成 23 年 1 月 5 日～9 日
会 場：東京体育館 (104 チーム・1,872 名参加見込)

⑤秩父宮賜杯・秩父宮妃賜杯全日本大学選手権大会（男女大会）

大学在校生で構成されたチームなら全ての大学が参加できる大会として、本年も以下の日程で大学日本一を決める本大会を実施する。

- 開催期間：平成 22 年 12 月 25 日～28 日
会 場：大阪府中央体育館ほか 3 会場 (250 チーム・4,500 名参加見込)

⑥ビーチバレージャパン

ビーチバレー日本一を決める全日本選手権大会として、本年は以下の日程で実施する。

男子大会：平成 22 年 8 月 12 日～14 日 神奈川県藤沢市鵜沼海岸
(56 チーム・112 名参加見込)

女子大会：平成 22 年 8 月 19 日～22 日 大阪府泉南郡淡輪海岸
(62 チーム・124 名参加見込)

⑦前記各競技大会に加え本会主催、開催地都道府県協会等の主管により、以下の各種別全国大会を実施する。

大会名等	実施期間	会場	参加チーム数・人数(見込)
全日本⑨実業団女子選手権大会	22.07.10～12	新潟県佐渡市	62 チーム・930 人
全国ママさん大会 (⑨)	22.07.22～25	群馬県前橋市	48 チーム・720 人
全日本⑨実業団男子選手権大会	22.07.23～26	栃木県鹿沼市・宇都宮市	67 チーム・1,005 人
全日本⑨クラブカップ女子選手権大会	22.08.11～14	大阪市	62 チーム・930 人
全日本⑨クラブカップ男子選手権大会	22.08.12～15	香川県高松市	67 チーム・1,005 人
全国⑨社会人男女優勝大会	22.10.08～17	鳥取市、宮城県仙台市	96 チーム・1,440 人
全日本⑨総合女子選手権大会	23.01.20～23	京都市	52 チーム・780 人
全日本⑨総合男子選手権大会	23.01.27～30	大阪市	60 チーム・900 人
ローソンカップ (⑨家庭婦人大会)	23.03.24～27	広島県	48 チーム・720 人
黒鷲旗全日本男女選抜優勝大会	22.04.30～05	大阪市	32 チーム・576 人
全日本クラブカップ男子選手権大会	22.08.05～08	熊本県山鹿市・菊池市	67 チーム・1,139 人
全日本クラブカップ女子選手権大会	22.08.05～08	福岡県北九州市	59 チーム・1,003 人
全国ヤングクラブ優勝大会	22.09.25～26	大阪府門真市・大阪市	98 チーム・1,680 人
以上⑨は 9 人制大会、その他は 6 人制大会			
全日本ビーチバレー大学男女選手権大会	22.08.05～08	神奈川県川崎市	80 チーム・160 人
全日本ビーチバレージュニア男子選手権大会	22.08.05～08	大阪府阪南市	52 チーム・156 人
全日本ビーチバレージュニア女子選手権大会	22.08.12～15	愛媛県伊予市	48 チーム・144 人
全国ソフトバレー・ファミリーフェスティバル	22.08.06～08	鳥取県境港市	48 チーム・432 人
全国ソフトバレー・シルバークフェスティバル	22.10.22～24	鹿児島県霧島市	54 チーム・486 人
全国ヴィンテージ 8' S 交流大会	22.11.19～21	沖縄県浦添市	24 チーム・360 人

⑧本会、財団法人日本体育協会等との共催により、以下の大会を実施する。

1) 国民体育大会バレーボール競技

日程・平成 22 年 10 月 1 日～4 日 開催地・千葉県茂原市ほか

2) 日本スポーツマスターズ 2010

日程・平成 22 年 9 月 18 日～21 日 開催地・三重県津市ほか

⑨本会、財団法人全国高等学校体育連盟等との共催により、以下の大会を実施する。

1) 全国高等学校総合体育大会男子バレーボール競技

日程・平成 22 年 7 月 30 日～8 月 3 日 開催地・沖縄県宮古島市

2) 全国高等学校総合体育大会女子バレーボール競技

日程・平成 22 年 8 月 5 日～9 日 開催地・沖縄県那覇市

3) 全国高等学校定時制・通信制大会

日程・平成22年8月5日～8日 開催地・神奈川県平塚市

⑩本会、財団法人日本中学校体育連盟等との共催により、以下の大会を実施する。

全日本中学校バレーボール選手権大会（男女大会）

日程・平成22年8月20日～23日 開催地・岡山県岡山市

(5) 地域グループ育成強化事業

本会の加盟団体である都道府県バレーボール協会及び全国的に組織されたバレーボール競技団体の育成、強化を目的に、団体運営ほか各種の支援を行う。

(6) マーケティング事業

バレーボールの社会的な価値や本会事業の推進に賛同いただいている協賛社とのパートナーシップの強化及び新規協賛社の獲得に向け積極的に活動する。

本会が所有する各種標章の無断及び不適切な使用がないように適切な管理運営を行うとともに、日本代表選手の肖像権等の管理運営を行い、無体財産の価値向上に努める。

(7) バレーボール用品・用具の公認及び公認物品販売事業

競技の公正、安全ほか競技者が安心して楽しくプレーできるように、ボール、ネットほか用品・用具の検定及び認定を行うとともに、バレーボール観戦を通して個人としてのマナー、エチケットなど、豊かな人間性を育むことを目的に、本会公認物品の販売を行う。

(8) 出版物等販売事業

バレーボールの愛好者、審判員、指導者をはじめとする多くの国民に対し、最新のルール情報を提供するために、公認ルールブックであるバレーボール6人制競技規則、同9人制規則、ソフトバレーボール競技規則、ビーチバレーボール競技規則及び各種教本等を出版販売する。

(9) Vリーグ開催及び開催支援事業

一般社団法人日本バレーボールリーグ機構が主催するVリーグについて、一部大会の開催権を取得し、バレーボールの普及、振興及び本会が行う公益目的事業の遂行に必要な財源調達を図ることを目的として開催する。

(10) その他

①財団法人日本体育協会が推進する国民スポーツ振興事業、財団法人日本オリンピック委員会が推進するオリンピック・ムーブメントほか諸事業に積極的に協力する。

②公益法人制度改革関連事項について

公益法人制度改革に係る法人移行準備作業を進め、平成 22 度中に公益財団法人移行申請を行う。

以上